

2019  
Vol.2  
秋号

# 寄り添う政治 で地域に尽くします!

福岡市議会議員  
福岡市民クラブ【城南区】

平成  
元年  
生まれ

井上まい通信

# 井上まい

ごあいさつ

9月から10月にかけて、9月定例会と決算特別委員会が行われました。9月の定例会では、議場にて登壇し、初めての一般質問をさせていただきました。「質問」と言っても、議会での質問は、一般に使う分からないことを尋ねる質問と違い、執行部に対し市民の声や要望を伝えるための大切な手段となります。今回は、私が行った質問の内容を含めてご報告いたします。

井上 麻衣

## 9月定例会

9月12日～24日まで、9月定例会が開かれました。6月の定例会と同じく、行政側から出される議案の審議が中心となり、合わせて議員からの一般質問の機会が与えられます。今回は、私の所属する福岡市民クラブからは、同じく1期生である新人議員みんなで登壇することになり、私も今回の定例会が一般質問のデビューとなりました。



今回の一般質問では、「女性活躍推進に向けた企業への支援策について」というテーマで、公約にも挙げておりました誰もが働きやすい環境づくりに関して質問しました。

一般的に労働分野に関しては、国や県が担うべき話だという風潮があります。今回の質問を作り上げていく過程でも、何度も市の担当者から「労働問題は県が管轄なので・・・」という回答が返ってきて前に進まない場面もありました。しかし、市にも中小企業を支援する担当局があり、人材採用を支援する施策も存在するため、全く無関係ではないのです。



数回に渡る勉強会を経て、市にできることを改めて整理し、今回は市民局の女性活躍推進課の取り組みに対し質問しました。たった2名しかいない女性活躍推進課でできることの限界に関し指摘し、もっと効果的な広報を市内の企業にしていくためにも、企業に対する施策を管轄している経済観光文化局も協力して取り組んでいくよう要望しました。

## 活動報告

7月27日 各地のお祭りにお邪魔しました。写真は、地元東油山2丁目のお祭りです。	8月4日 城南区ママさんバレーボール大会にて。迫力に圧倒されました。	8月18日 市政報告会。多くの地域の方に、ご参加いただきました。	8月～9月 インターンシップに来てくれた大学生が政策立案コンテストで優勝。	9月5日 以前からお世話になっている古賀市長の元へインターン生と訪問。古賀市議会も傍聴しました。	9月8日 ソフトバレーボール大会。始球式で投げさせていただきました。	9月14日 城南区中学生サミット。ディベートが大変勉強になりました。
10月6日 南片江校区運動会。進行係として参加しました。	11月6日 福岡市民クラブの活動報告会を行いました。	11月10日 福岡マラソン。いなとみ衆議院議員と参加。初マラソン、なんとか完走しました。				

## 市議会の話 2

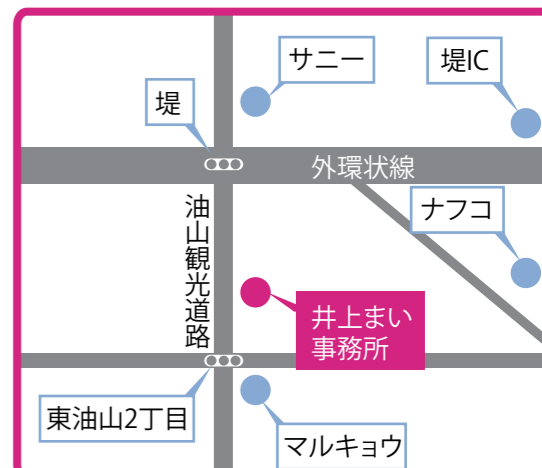
「政治を身近に」を目標の一つに掲げております。みなさまに少しでも政治を身近に感じて頂けるように、分かりやすくご説明していきます。第2弾は、「決算特別委員会」についてお話しします。

福岡市議会では、年に4回の定例会と不定期に招集される臨時会に加え、委員会が開かれます。委員会の中には、さらに「常任委員会」と「特別委員会」があります。常任委員会は、担当局ごとに5つの委員会に分かれており、私は「経済振興委員会」に所属しています。特別委員会には「交通対策特別委員会」「少子・高齢化対策特別委員会」「議会改革調査特別委員会」「都市問題等調査特別委員会」があり、私は「交通対策特別委員会」に所属しています。そして10月には「決算特別委員会」が、3月には「予算特別委員会」が開かれます。今回開かれた「決算特別委員会」では、平成30年度の決算内容に関し審議をしますが、本会議場とは違い、特別委員会室という部屋で行われます。裏面の写真からも分かると思いますが、本会議場とは違い市長をはじめとした執行部側とも距離が非常に近く、定例会とは違った緊張感があります。決算ということで「もう終わったことを話してどうするの?」とご質問を受けることもあります。終わったことだからこそ、取り組みの結果がどうだったのか、昨年の予算が適正だったのかを精査することが、次年度の予算決めのためにも非常に重要になります。各常任委員会ごとにも細かなところまでしっかりと審議をし、質問を通して次年度への要望を伝えました。



## 井上まいプロフィール

平成元年 福岡県生まれ  
平成20年 福岡県立明善高等学校卒業。陸上部で走り込む日々  
平成25年 九州大学 21世紀プログラム課程卒業。  
平成27年 株式会社リクルートジョブズ入社。求人広告の営業を担当。福岡の企業延べ250社を担当し、採用のプロとして課題解決に取り組む  
平成30年 同社退職。新たな目標の実現に向けて、衆議院議員いなとみ修二秘書として活動を開始(城南区担当)  
平成31年 福岡市議会議員初当選



公式ホームページ  
https://inouemai.jp



LINE@  
活動配信中!



Instagram  
Instagram



Facebook  
フェイスブック



Twitter  
ツイッター



〒814-0155  
福岡市城南区東油山1丁目1-16 東野ビル1F  
TEL 092-874-2601 FAX 092-874-2602



**福岡市民クラブ、平成30年度決算特別委員会に臨む!**

決算特別委員会は、本会議場とはことなり特別委員会室にて開催されます。

**令和元年度 第4回福岡市議会(9月定例会)開催**

第4回定例会(9月12日~24日)が召集され、令和元年度一般会計補正予算案の他、条例の制定、改正等、全31議案について審議しました。中でも、10月より「幼児教育・保育の無償化」が始まることに関連する議案審議を行いましたので、ご報告いたします。

**幼児教育・保育の無償化**

幼児教育・保育の無償化とは、**保育の利用料**を無償化するものです。

**対象となる子ども**

- 3歳から5歳... 幼稚園、保育所、認定こども園等を利用する子供
- 0歳から2歳... 住民税非課税世帯



**※無償化の対象ではないもの**

- ・行事費や通園送迎費などの負担に加え、昼食やおやつ用の食料費は、保護者負担となります。
- ・通常の保育利用者は、延長保育や病児病後児保育などは対象外となります。

※ただし、年収360万円未満相当世帯の子どもたちと全ての世帯の第3子以降の子どもたちについては、副食(おかず・おやつ等)の費用が免除されます。

**<議案質疑について>**

本制度のサービスを受用できるのは、あくまでも対象となる保育所・幼稚園に預けていることが前提となります。本年4月現在の3歳から5歳の待機児童は3名、未入所児童は285名であり、新制度のスタートに向けた状況把握と、積極的な保育の斡旋など、早急な対応を強く要望しました。

**市議会に対し意見書を提出、可決!**

9月定例会に際し、福岡市民クラブより1点、他会派立案の意見書2点について審議しました。それぞれの議決結果は、下記の通りです。

内容	立案者	内容
核兵器禁止条約の締結を求める意見書	市民クラブ	可決
高齢者の安全運転支援と移動手段の確保を求める意見書	公明党	可決
安全運転支援装置の設置等に係る公的補助制度の創設を求める意見書	共産党	否決

**子どもの権利保障としての学びの多様化を!**

一般質問[9月13日] **成瀬 穂美(南区)**



教育機会確保法が2017年に施行されました。本法ではフリースクール等と国や地方自治体との密接な連携が基本方針となり、不登校児童生徒への施策の推進が定められています。**子どもの権利保障としての学びの多様化を推進するという立場で、多様な教育の保障が不登校対策のみならず、既存の教育制度の枠外で広がりがつつあるオルタナティブ教育へも波及するよう訴えました。特に高校進学の際に評価の基準となる「在籍校での「出席扱い」や内申書の発行**については、子どもの選択権を奪うことがないような制度を要望しました。また本法では**財政措置**を講ずることも地方自治体に求めます。他都市をけん引する立場での前向きな検討を要望しました。

**高齢者に身近な運動機会の拡充に向けて!!**

一般質問[9月17日] **山田 ゆみこ(博多区)**



高齢化の進展に伴い「住み慣れた地域で暮らしたい」、「自立した生活をしたい」という声が多く、介護予防への関心も高まっています。現在、福岡市では、「**よかとレ実践ステーション**」という介護予防の取り組みを進めており148校区455ヶ所において実施されていますが、まだまだご存知ない方も多く「よかとレ実践ステーション」を新たに始めるには、場所の確保と、区の保健福祉センターへの届け出が必要です。認知度を高めるとともに、より多くの方が身近な場所で運動ができるよう、**いきいきセンターが軸となって、地域団体や民間企業と協力し、高齢者に身近な場での運動機会の拡充に取り組むべき**と訴えました。当局からは、前向きな答弁を得ました。

**健康づくりは子どもや若い世代からが重要!**

一般質問[9月17日] **ついちはら 陽子(東区)**



「週に1回以上スポーツを行う」と回答した市民の割合を見ると、全体の53.3%に対して20代は42.1%と10%も低く、**若い世代の運動離れ**が伺えます。若い時からの運動習慣が睡眠の質や1日のカロリー消費量などにも影響してくるというデータがあり、さらに、子どもの頃からの運動習慣が体の機能の発達を促すため効果があると期待されています。思い立ったらすぐに始められるよう、公園への**健康遊具の設置**など、身近な場所に運動のできる環境を整えていくこと、そして、食事や運動、イベント参加、健康診断受診などの健康づくりに関する市民の活動をポイント化するなど、楽しみながら健康になれるような、**運動のきっかけづくり**をしていくことを要望しました。

**女性活躍推進は企業への展開拡大が必要!**

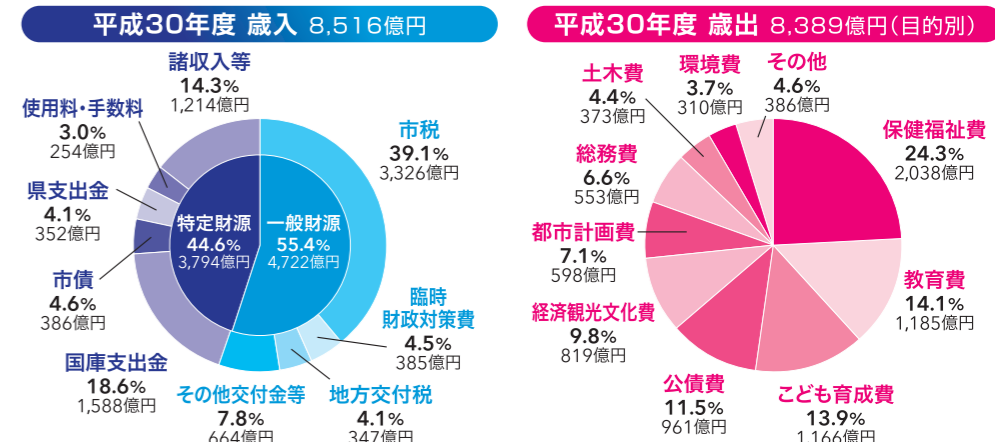
一般質問[9月18日] **井上 麻衣(城南区)**



本市の女性活躍推進の取組みについて、特に民間企業に対する施策、周知方法について質しました。女性比率の高い本市では女性活躍の場をさらに広げる必要があり、その為にも、企業に対して情報提供やサポートが必須ですが、**現状では70,000社以上ある市内企業のごく一部にしか周知できていない**事実を指摘。今以上に多くの企業に本市の施策を周知し活用を促す為、女性活躍推進を所管する市民局だけでなく、産業振興や中小企業支援等を所管する**経済観光文化局との連携の必要性**を主張。前者からは「**企業に対しても関係局と連携し取組みを進める**」、後者からは「**市内企業へ向けての情報発信について各局と連携を図っていく**」との答弁を得ました。

**平成30年度決算特別委員会開会 [10月2日(水)~21日(月)]**

一般会計に関する概要についてご報告いたします。  
歳入全体をみると、前年度に比べ103億円(1.2%)増となりました。県費負担教職員制度の権限移譲に伴う税率変更も含め、市税収入は約392億円増加し過去最高額となりました。  
歳出総額は、前年度に比べ109億円(1.3%)の減となりました。目的別にみると、こども育成費が32億円増えた一方で、経済観光文化費、都市計画費、土木費が減少しているところが特徴です。



**障がい者の雇用拡大と定着支援を要望**

総会質疑[10月3日] **宮浦 寛(早良区)**



昨年8月に発覚した、中央省庁等における障がい者雇用に関する「水増し」問題。福岡市においても、3の3の外郭団体のうち、4団体が雇用率未達成であることが判明。本市と関連団体に対し、この間の雇用率達成への取り組みを確認するとともに、**採用試験における精神・知的障がい者への門戸拡大**とあわせ、**任用期限付きの非正規ではなく正規職員としての採用枠を増やすこと、採用後の定着支援充実策**など、本市の姿勢を質しました。このほか、「再犯防止の推進」と「狭小公園(規模の小さな公園)の現状と課題」の2項目では、社会状況などの変化に対応しながら、さらに住みよいまちづくりを進めていくための市の支援策などについて問いました。

**博多湾の環境改善&ひきこもり支援**

総会質疑[10月7日] **落石 俊則(東区)**



博多湾は、多くの生物が生息する豊かな里海ですが、近年、プラスチック等の海底ごみや漂着ごみが増えています。湾は浅く、閉鎖性は東京湾等と比べ大きく、海水交換が行われにくい海域のため、より環境改善を図っていく必要があります。福岡市漁協による「**博多湾漁場クリーンアップ作戦**」や市民啓発事業「**FUKUOKAおさかなレンジャー**」の継続と**河川流域の自治体との連携やプラごみ削減の啓発活動強化**を要望しました。ひきこもり状態にある人たちが、約110万人と推計されています。本人・家族が安心して、**相談できる関係窓口の周知と「背中を押す」誘導策**を要望。地域支援員を活用し、早期に相談窓口につながるよう連携を強化するとの答弁を得ました。

**充実した「市民参加」制度の構築を求め!**

一般質問[9月18日] **田中 たかし(西区)**



行政の政策決定過程における市民参加が全国的に進む中、本市における「市民参加」について、第9次基本計画策定時を取上げ質問しました。当時、**アンケートやパブリックコメント、ワークショップ**などを採用して計画策定をしましたが、市民の声がきちんと反映されたかは疑問が残りました。また、従来からの課題である参加者の固定化や効果的な反映方法の検討などの対応策も不十分です。市として市民参加は重要と考えているとの認識でしたが、計画策定後の効果検証や振り返りも無く、本気度が高いとは言えません。形式的な市民参加では市民の声は反映されません。**形骸化させないために市民参加制度を担保する市民参加条例制定を強く要望**しました。

**DV相談と児童虐待防止の連携を!**

総会質疑[10月4日] **池田 良子(西区)**



子ども総合相談センター(えがお館)の2018年度の児童虐待の相談対応件数は1,908件、そのうち1,200件(62.9%)が心理的虐待で、その中でも733件(61.1%)が親が子どもの前で、配偶者に暴力をふるったり、暴言を吐いたりする行為(面前DV)であることがわかりました。**DV被害と子どもの心理的虐待(面前DV)の関連性を指摘し、DV発覚から一体解決につながる相談体制の構築**を求めました。福岡市は、自閉症・情緒障がい特別支援学級が足りておらず、中央区、城南区には未設置であることから、**自閉症・情緒障がい特別支援学級の増設と、対象となる児童・生徒が日ごろ通う小中学校への専門教員の巡回型も含めた通級指導教室の増設・設置**を求めました。

**人口増加都市ならではの政策求め!**

総会質疑[10月18日] **近藤 里美(南区)**



福岡市は6年連続で税収最高額を更新し続けており、これは人口増が大きく影響しています。総人口は平成17年からの10年間で約14万人増え、中でも65歳以上は約10万人増えている状況です。特に、**一人暮らしの高齢者が急増している**ことは注視する必要があります。一方、転入・転出状況を見ると、0歳~14歳は転出超過にあることから、**子育て世代が転出超過**となっていることが伺えます。これからの中長期的な政策の立案にあたり、踏み込んだ人口動態の分析をしっかりと実施した上で、子育て世代の動向、単独世帯の増加や変化がもたらす影響、地域コミュニティの希薄化など、**都市ならではの变化をいち早く捉えて、政策に反映していく**よう訴えました。